

平成 31 年 3 月 31 日

平成 30 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 地域拠点
氏 名 山本 好男

活動 テー マ	中山間地における集落機能等維持に関する調査と連携活動
実施 期間	平成 30 年 6 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日
活動 内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>①地域の特徴・特性：いにしえから現在への贈り物、里の暮らし、里山、水系、普段の食、自然の優しさ、地域の特産、地域で良く作られている料理、地域で栽培されている野菜、地域で栽培されている根菜、地域で栽培されている果物、伝統的なもの、古くからまたは今でも作るものなどについてのアンケート、ヒアリングを通して地域の概要を知る。</p> <p>②地域における年間行事、慶弔時のしきたり作度地方としての風習、信仰などについて調査した。</p> <p>③集落の現状と問題点：限界集落、集落機能の存続、交通手段、空き家、独居世帯数、農業や林業への従事者・高齢化、野生獣による被害の有無などについて調査した。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>阿山地域の各自治体に伊賀研究拠点の存在を知らしめ、技術相談など 地域との往来を密にすることができた。また丸柱地区では町の長老をはじめ複数の町民と丸柱地域の過去と現在について貴重な情報を得た。さらに町の歴史をまとめたものが無いことから編集にも関与し、歴史研究会のまとめた原稿の冊子化に協力した</p>

(2019年, 11月刊行予定、写真1)。

(3) 共同実施者との連携状況

小林課長：夢テクノ伊賀運営会議時に情報交換および中山間地の現状と問題点、将来像について話し合う機会をもった。

堀課長：別件の共同研究委員会開催時および阿山庁舎にて三重大学伊賀研究拠点の活動方針、地域連携活動について、ならびに中山間地の将来について話し合う機会が多数会あった。

伊賀研究拠点の協力者（酒井、紀平両先生）は、問題および集計結果について適切な示唆を与えてくれた。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

既に生物資源学部の教育に阿山地域で学生実習が行われており、また林学の学生たちの教育に伊賀地域の山林の見学実習などが行われている。これらは若い学生たちの姿が住民を刺激している。さらに医学部の学生有志が丸柱市民センターにて生田病院生田先生の指導で貴重な体験をしている。交通の便の悪い中山間地の高齢者医療問題についても種々の経験をしている。市内中心部と異なり、周辺山間部特有の問題を理解し、本調査についても協力してくれた。

(5) イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

30年オーガニックフェスタが長谷園広場で開催され、地元伊賀研究拠点の一人として参加した。中山間地の産物や伊勢市などからの出展があり盛大に開催された。その際の風景写真を以下に添付する。またその際に本研究課題に関するヒアリングを地元周辺の住民からの意見を伺った。その際の風景写真②を以下に添付する。

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

伊賀市周辺と国阿山周辺地域を対象に調査を行った。限界集落もみられ、集落機能維持困難集落、近い将来消滅の可能性の集落が存在した。個々の集落の状況に応じた予防や集落再生についての取組みについて対策や提言が必要となり、調査結果を踏まえると以下のような事項が考えられる。

- ・ 健康な労働力の把握, 結集を図る。
- ・ 水稻等の作付けは集落の枠組みを超えて営農法人等に委託する。
- ・ 労働力を集約し、共同で有休農地、耕作放棄地で根菜類の栽培や林業の支援を図る。
- ・ 特産品の発掘、田舎体験、貸し農園などの実施を提案。
- ・ 近隣あるいは行政などに呼びかけ、地区民とともに田守り隊、里山整備保全隊、耕作放棄地再生隊、獣害阻止隊などを組織し、集落維持のため人材を呼び込む。
- ・ 地域活性化に向けて地区外との交流を図る。大学と地域との連携で学生の農業体験や限界集落の暮らし体験等の実施。
- ・ お祭りや地区内行事などに都市部で働いている親族（子や孫）集落内に帰省する機会を増やしつつ定着を図る働きかけを行う。
- ・ 若者を増やす取組みを行う、空き家への移住、再整理活用。行政と連携して検討する。
- ・ 地域住民による農家レストランの運営や捕獲有害獣利用のジビエ等販売。

まとめ

過疎化・高齢化が進み、危機的集落、限界集落へと向かう集落を再生させる取組みや対策は、集落内人口構成、高齢化に伴う労働力の減少、現金収入や年金問題、病気による通院・入院、死別等による独居、秋や問題、中山間値の環境変化、交通利便性などの集落の立地や環境などにより、多様であることが判明した。

調査からいえることは、何とか現状に応じた、集落の維持から再生へ、さらには、発展をめざすはたらきかけを行政のみならず地域内で早急に話し合う必要性がある。



写真1 歴史書の編纂（11月刊行予定）



写真2 丸柱で開催されたアグリフェスタ遠景 (2018. 11. 24)